

講義要項作成様式（講義用）

平成18年度 前期

学部昼間主

(該当区分のみに加工してください。)

授業科目 外国書講読 _____ 4単位 担当教員 三古 展弘 _____

I. 授業のテーマと目標

近年、日本でも東京湾アクアライン、本州四国連絡橋などの巨大プロジェクトにおける過大な需要予測やその採算性が問題となることも多い。本講義では、巨大プロジェクトとそれに関するリスクについて取り扱った文献を講読し、従来型のプロジェクト実施法の問題点と、それにとってかわる可能性のあるプロジェクト実施法について理解することを目的とする。講義は、基本的に、受講者にあらかじめ担当箇所を割り当て、報告してもらう形で進める予定である。また、あらかじめその週の質問担当者も割り当てることで、受講者間の議論を促進する工夫も考えている。時間に余裕があれば、他のプロジェクトを取り扱ったり、受講者に関心のあるプロジェクトを調査してもらうことも検討している。

II. 教科書・参考書

Flyvbjerg, B., Bruzelius, N. and Rothengatter, W. (2003) Megaprojects and Risk: An Anatomy of Ambition, Cambridge University Press.

III. 授業内容の要旨と授業計画

1. イントロダクション
2. 第1章 The megaprojects paradox
3. 第2章 A calamitous history of cost overrun
4. 第3章 The demand for megaprojects
5. 第4章 Substance and spin in megaproject economics
6. 第5章 Environmental impacts and risks
7. 第6章 Regional and economic growth effects
8. 第7章 Dealing with risk
9. 第8章 Conventional megaproject development
10. 第9章 Lessons of privatisation
11. 第10章 Four instruments of accountability
12. 第11章 Accountable megaproject decision making
13. 第12章 Beyond the megaprojects paradox
14. 付録 Risk and accountability at work: a case study

IV. 成績評価の方法

出席、講義中の発表と質問、レポート（50%程度）、試験（50%程度）。

V. 学生へのメッセージ

第1回目の講義で担当の割り当てを行いますので、特別の理由が無い限り必ず出席してください。欠席の場合は事前に連絡をしてください。

無断での欠席や遅刻が多い場合、単位の取得を認めません（詳しくは第1回目の講義で説明します）。その他の講義の進め方についても第1回目の講義で説明および相談します。

「平成17年度 前期担当科目と同一内容」